令和2年度第1回千葉市史編さん会議議事録

1 日 時：令和2年11月10日（火） 午後1時30分～3時10分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室

3 出席者：（委員）

吉田会長、本郷副会長、今井委員、佐野委員、椎名委員
（千葉市史編集委員会代表）

池田委員長

（事務局）

佐々木生涯学習部長、佐久間文化財課長、

天野郷土博物館長、芦田副館長、錦織主査、土屋主任主事

4 議 題

- (1) 令和2年度事業中間報告について
- (2) 『千葉市歴史読本（仮称）』について
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 令和2年度事業中間報告について

令和2年度事業中間報告について説明した。普及事業、研究事業、史料編近現代（第1巻目）などについて議論が出された。

- (2) 『千葉市歴史読本（仮称）』について

歴史読本の概要について説明した。今後の進め方について意見が出された。

- (3) その他

特になし。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（錦織主査）より、千葉市史編さん会議設置条例第5条第2項の規定により、会議が成立する旨が告げられ開会。その後、資料の確認、新任の椎名委員の紹介、事務局新職員を紹介、佐々木生涯学習部長、吉田会長のご挨拶に続き、設置条例第5条第1項の規定により、会長が議長となって議事に入った。

議題1 令和2年度事業中間報告について

令和2年度事業中間報告について、6つの項目に分けて、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：議題1は多岐にわたるので、まずは史料調査・収集・整理事業から入りたい。

足立英子家文書（2次分）は、『史料編9近世』の刊行以降、最大規模の調査・収集・整理ということになるのか。

事務局（土屋）：最大規模に近いものになる。

吉田会長：『史料編9近世』には史料を全く掲載していないのか。

事務局（芦田）：一部は掲載している。

吉田会長：この史料群の情報は、結構重要だと思う。川野辺新田はどのような特徴を持つ村なのか。

事務局（芦田）：川野辺新田は、もともと六方野の入会地であったが、江戸時代後期頃に新田開発で成立した村である。

吉田会長：続いて刊行事業・普及事業・研究事業などはどうか。『千葉いまむかし』34号に原稿の投稿があったようであるが、投稿原稿の審査はどうなっているのか。

事務局（土屋）：千葉市史編集委員会による査読を実施している。担当の委員は、掲載可否を含めて内容の確認を行っている。

吉田会長：千葉市史編集委員会による査読は、原稿1本につき何名で行っているのか。

事務局（土屋）：1名で査読を行っている。また、原稿の分量や締切りなどの投稿規定は、『千葉いまむかし』の各号に掲載している。

吉田会長：原稿の投稿はめずらしいことなのか。

事務局（土屋）：今回投稿された方は、数年前にも別の原稿を『千葉いまむかし』に投稿している。

吉田会長：新型コロナウイルス禍の状況下で、大学の授業や研究会などもzoomによってオンラインで開催することが多い。古文書講座や「江戸と千葉」研究会なども、オンラインでの開催を検討してみてはどうか。

事務局（芦田）：市の担当課で遠隔会議用パソコンを数台貸出している。しかし、事前の予約が必要で、自由にいつでも開催できる環境は整っていない。

本郷副会長：学校はオンラインで生徒に授業をすることはあるのか。

椎名委員：オンラインによる授業は、生徒のネットワーク環境によってしまう。ただし、次年度から、市のGIGAスクール構想により、1人1台の学習用端末が整備され、教室にタブレットPCの充電保管庫も設置されるようである。

本郷副会長：古文書講座は高齢者の受講が多いと思うが、受講者のネット環境はどうなっているのか。

事務局（芦田）：受講者によって異なると思う。講座の申込も電子で申請できるようになっているが、往復ハガキでの申込も多い。

今井委員：ちば・生浜歴史調査会でも、3月から9月まで在宅学習の形をとった。史料のコピーは受講生に送付して、パソコンのメール等で釈文と読み下し文を提出するようにした。しかし、全員がメールで提出することはできず、手書きでの提出も可能にした。

吉田会長：オンラインで一緒に学習することは行ったのか。

今井委員：オンラインならできると思ったが、パソコンを持っていない会員もいるので、通信教育のような形をとった。

椎名委員：オンラインの環境下でリアルタイムの授業を行うことは、機材の問題も含めて負担になると思うので、千葉市の小・中学校では、休校期間中に授業を収録して、その動画を公開していた。こちらから発信するだけであれば、講座を収録して動画を公開する方法もあると思う。

吉田会長：市史研究講座のように、100人以上の受講者が参加する講座を録画し、別の日に動画として公開するというのも可能だと思う。

事務局（天野）：市史研究講座は、例年より受講者の人数を限定して、会場で実施した。

一方で、千葉大学と連携事業で行う千葉氏公開講座は、講座を録画した上で、当館ホームページの千葉氏ポータルサイトで公開することにした。ただし、インターネットの環境が整ってない方もいるので、講演録の冊子も作成して希望者に差し上げることにした。

吉田会長：何か多少でもいろいろな工夫ができる機会ではないかと思う。

天野館長：夏頃に開催した千葉氏公開市民講座は、講演内容を文章化していただき、千葉氏ポータルサイトのPDFデータ及び冊子として講演録を公開した。何らかの代替措置をとって、市民に伝えていく活動を模索しながら展開しているところである。

吉田会長：新型コロナウイルス禍の状況下で、事業を継続する工夫をぜひ検討していただきたい。最後の『千葉市史史料編近現代』（1巻目）について、池田委員長より説明をお願いしたい。

池田委員長：近現代史部会は、ようやく9月にオンラインも活用して開催した。今年度は、新型コロナウイルス禍の状況下ではあったが、作業部会の委員を中心に細部を詰めて、何とか第1巻目の刊行に辿り着くことができた。

吉田会長：新任の委員もいるので、改めて本書の構成を簡単に説明してほしい。

池田委員長：第1巻目の史料編は、明治時代の史料を掲載している。全体として4編で構成され、第1編が「行政と政治のあゆみ」、第2編が「産業と経済の発達」、第3編が「文明とくらし」、第4編は「社会の諸相」という内容ある。紙幅に限りはあったが、近現代史の編集委員で分担を決めて掲載史料を選定した。

吉田会長：市史編さん事業の歴史の中でも、画期的なことである。

今井委員：史料編が通算して10巻目まで到達したという思いである。

吉田会長：刊行後は、第1巻目を活用するような活動を行うことが重要であると思う。

他に何かあるか。なければ、議題2に移る。

議題2 『千葉市歴史読本（仮称）』について

『千葉市歴史読本（仮称）』の概要について、芦田副館長が説明。

<質疑応答>

吉田会長：では、議題2について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。原稿を執筆する際は、こういう形で具体的に作成することを示すような見本原稿があると良い。

本郷副会長：今まで歴史読本が刊行できたらと思っていたが、刊行することが決まったら展開が早いという感想である。千葉市の歴史資料をまとめて市民に提示できると、地域の歴史に対する理解が深まると思う。ただし、日程的に大丈夫かという懸念はある。

池田委員長：近現代については、9月の近現代史部会でテーマ項目・コラムの執筆担当者を決めた。近現代のコラムについては、図版や写真などが多く入るため、1頁分の場合だと書き切れないので、2頁分ずつ割り当てる形にした。

吉田会長：歴史を調べる・叙述する・学ぶ際に、遺物・古文書・絵図・写真など、素材となる歴史資料に基づいて、具体的にかつ事実即して考えるということが非常に大事である。それは、歴史研究者にとっても、市民の方にとっても、同じ意味がある。

素材との対話から、過去の歴史を見ることの面白さを、本書で味わう形がよいと思う。イメージとしては、博物館の展示図録にある意味近い性格を持っている。原始・古代から近現代までのいくつものテーマを通じて、必ず素材から入り、その素材をどう読み解くかということ、読み手に示すということが、ひとつの眼目だと思う。

さらに、この刊行を1回だけのものとしてイメージするのではない。こうした刊行物をベースにして、次の段階では、例えば行政区別のビジュアル冊子など、いろいろな形で展開していくことができると思う。

ただし、今年度中に原稿を集めるのは難しいのではないかと思う。こうした原稿を作成する期間は、どれくらい必要なのか。

本郷副会長：執筆者の事情を考えると、例えば5月の連休明けなど、半年は必要だと思う。

令和3年度の刊行であれば、年度末に刊行時期を変更してはどうかと思う。

事務局（芦田）：本市の市制施行100周年を前提としているので、令和3年末の刊行を予定している。

佐野委員：B5判で240頁は、結構なボリュームになると思う。その刊行物を持つ楽しみもあるが、逆に重量があると感ずることもある。有償配布は1,500部ということなので、電子書籍化して販路を広げてもいいのかと思う。

電子化すると、学校の授業などでも活用できると思う。子供たちが、高校さらに大学を卒業して、地元の千葉市がどんな歴史を持っているのかを感じることができる冊子にもなれば、有意義なものになると思う。

吉田会長：歴史読本は千葉市で発行するのか。

事務局（天野）：千葉市で発行する。ただし、1冊あたりの価格をどのくらいに設定するか検討する必要がある。

本郷副会長：手に取りやすいように、できるだけお手頃な価格で販売できたらと思う。

佐野委員：販売先をある程度読むことができると、価格の設定ができる。書店に置くのか、個別に注文を受け付けるのか、興味・関心のある団体にまとめて注文をとるのかなど、いろいろな方法があると思う。その辺りが決まらないと、なかなか値段感やコスト感がイメージできない。

事務局（天野）：他自治体の通史編は、オールカラーでかつ分量もあるが、お手頃な価格で販売している。価格の設定は大きいと感じている。

吉田会長：その通史編も自治体が独自で発行しているのか。

事務局（天野）：独自で発行している。書店はなく、公共施設で販売している。

吉田会長：そういう意味でいうと、装丁がすごく大事だと思うので、装丁の専門家に相談しても良いのではと思う。

佐野委員：紙面のレイアウトや構成には、いろいろな要素がある。歴史資料をビジュアルで見せるのは、なかなか難しい。読み手の立場を考えたとき、何頁かは読み進めるが、表紙のデザインや、表紙をめくったときの印象次第では、本を閉じてしまうことがある。高校生が理解できる叙述ということであるが、どの年代層でも馴染むような文字の大きさ、そして写真の配置は、真剣に考えた方が良いと思う。

吉田会長：原始・古代の遺跡や遺物写真はカラーで、近世の村絵図もカラフルだと思う。

他には何かあるか。学校にも歴史読本を普及するための方策があればお願いしたい。

椎名委員：本校では、社会科のスペースに、千葉県史なども配架している。休み時間などに、興味・関心のある生徒が見ていたりする。そのような生徒たちが「手に取りたい」と思うような本であれば、目立つ場所に置きたい。

吉田会長：今後の市史編さん事業を見据える上でも、大変重要な課題だと思う。他に何もなければ、議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

次回の千葉市史編さん会議は、令和3年3月19日（金）午後1時30分に開催することが決定した。その後、司会（錦織主査）の進行により、令和2年度第1回千葉市史編さん会議を終了した。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231